

令和4年度

病院事業会計決算の概要

令和5年9月26日

島根県病院局

令和4年度 病院事業の概要

1 概況

病院事業は、平成19年4月に地方公営企業法の全部適用に移行し、新たに病院事業を所管する独立した組織として、病院事業管理者の下、病院局が設置された。

病院局の組織には、本局（県立病院課）、中央病院及びこころの医療センターを置き、病院運営にあたっては、「医療機能の充実と政策医療の推進」「地域医療への積極的な支援」及び「医療従事者の育成」を重点3項目として取り組むとともに、経営の健全化に努め、質の高い医療や政策医療等を効果的・安定的に提供し、県立病院としての役割と使命を果たすこととしている。

令和4年度における中央病院の経営状況については、「中央病院経営改善実行プラン2022」に基づき医療の質の向上による各種診療報酬加算の取得等に取り組んだほか、新型コロナウイルス感染症関連補助金の収入等があり、総収益は前年度比2.7%の増となった。

また、人件費の増や物価高騰の影響がありながらも、医薬品等の価格交渉の工夫や委託業務の見直し等による経費節減などを着実に実行したこと等により、経常損益は令和2年度から3年連続で黒字となり、単年度資金収支については2年連続の黒字を計上した。

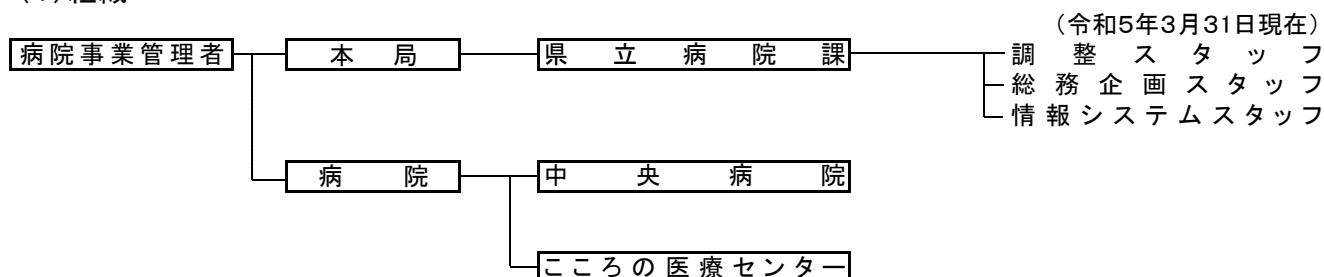
今後も毎年度、経営改善実行プランを策定し、実効性を高めながら病院全体で収支改善に取り組んでいく。

令和4年度におけるこころの医療センターの経営状況については、診療単価の上昇はあったものの、入院患者数・外来患者数の減少に加え、人件費の増や物価高騰による費用の増加等により、純損益は平成29年度以来の赤字を計上した。

今後は、患者数の増加や施設基準の確保などによる収益の増加及び、経費節減や業務効率化などによる費用の削減を図り、収支改善に取り組んでいく。

2 病院局本局

(1)組織



(2)職員の配置状況

(令和5年3月31日現在)

(単位:人)

職種		令和4年度 現員A	令和3年度 現員B	増減 A-B
特別職	病院事業管理者	1	1	0
医療職	参与	0	0	0
行政職	病院局長	1	1	0
	病院局次長	1	1	0
	県立病院課長	0	0	0
	病院事業管理者補佐	1	1	0
	県立病院課長代理	1	1	0
	調整監	1	1	0
	企画幹	4	4	0
	企画員	1	1	0
合計		11	11	0

(2) 職員の配置状況

(令和5年3月31日現在)

(単位:人)

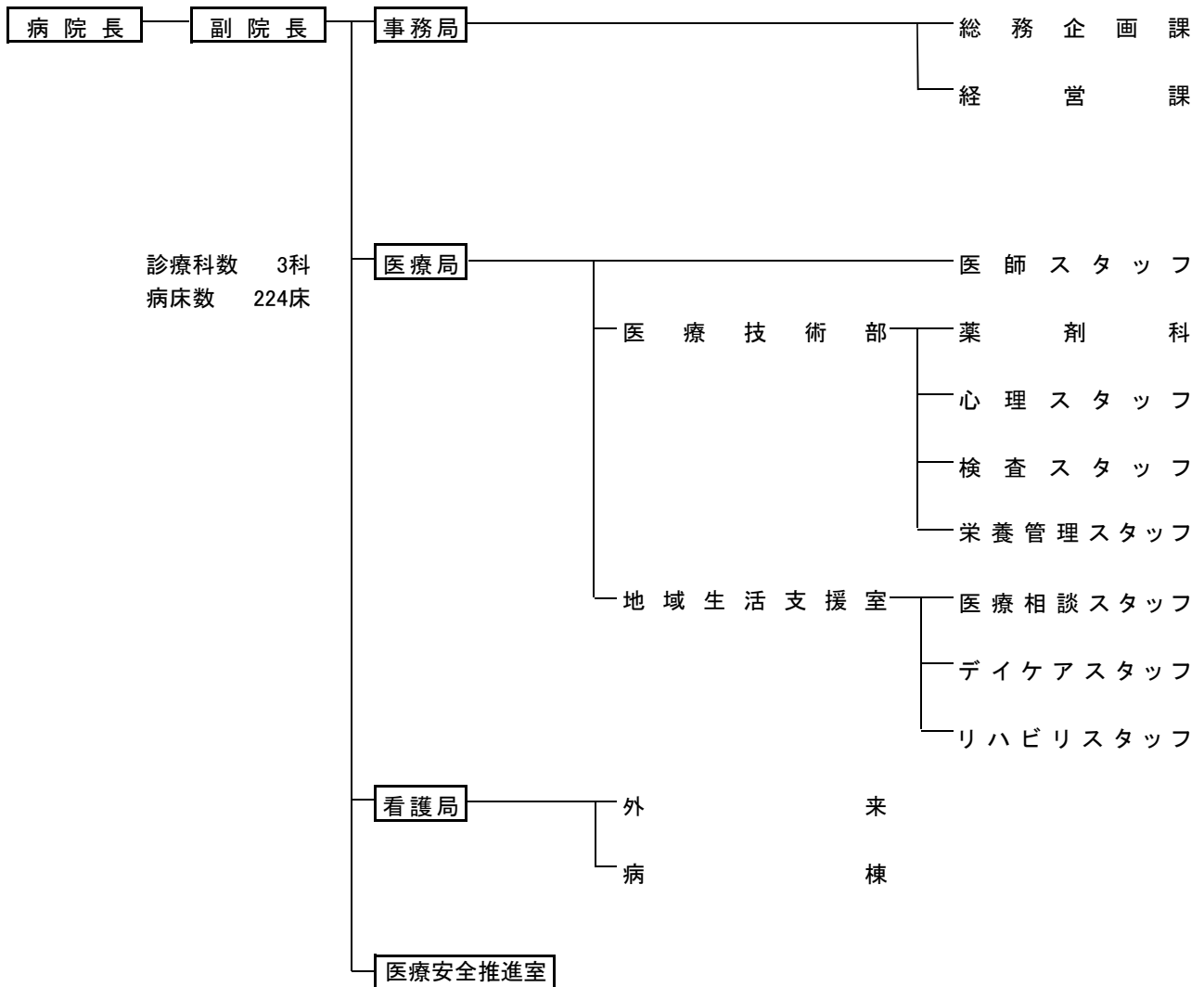
職 種	令和4年度現員			令和3年度現員			増 減			
	正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計	
医 師	病 院 長	1		1	1		1	0	0	0
	副 院 長	4		4	4		4	0	0	0
	医療局長・次長、薬剤局長、 医療技術局長	6		6	6		6	0	0	0
	部 長	37		37	38		38	▲1	0	▲1
	医 長	71		71	73		73	▲2	0	▲2
	医 員	19		19	22		22	▲3	0	▲3
	嘱託・研修医師	0	28	28	0	28	28	0	0	0
計	138	28	166	144	28	172	▲6	0	▲6	
看 護 師	副院長・看護局長・次長	5		5	5		5	0	0	0
	看護部長・師長	29		29	29		29	0	0	0
	副看護師長	38		38	38		38	0	0	0
	看護師	517	58	575	501	53	554	16	5	21
	准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助産師	44	3	47	46	4	50	▲2	▲1	▲3
計	633	61	694	619	57	676	14	4	18	
医 療 技 術 職 員	医療技術局長	0		0	0		0	0	0	0
	薬 剤 師	36		36	36		36	0	0	0
	臨床検査技師	32	8	40	30	7	37	2	1	3
	臨床工学技士	18		18	17		17	1	0	1
	臨床心理士	2	2	4	2	2	4	0	0	0
	診療放射線技師	27	1	28	29	0	29	▲2	1	▲1
	理学療法士	18	2	20	15	3	18	3	▲1	2
	作業療法士	7	1	8	6	1	7	1	0	1
	言語聴覚士	5	1	6	5	1	6	0	0	0
	管理栄養士	11	3	14	9	3	12	2	0	2
	栄養士	2	0	2	1	0	1	1	0	1
	視能訓練士	3		3	3		3	0	0	0
	歯科衛生士	4	4	8	2	4	6	2	0	2
	心理判定員	0		0	0		0	0	0	0
	診療情報管理士	7	4	11	7	3	10	0	1	1
医療情報技師	2		2	2		2	0	0	0	
社会福祉士	8	1	9	8	1	9	0	0	0	
計	182	27	209	172	25	197	10	2	12	
事 務 職 員	事務局長・次長・部長・調整監	2		2	2		2	0	0	0
	課 長	3		3	3		3	0	0	0
	主幹・企画員・主任・主任 主任主事・主事	28	0	28	29	0	29	▲1	0	▲1
	事務員	0	103	103	0	101	101	0	2	2
計	33	103	136	34	101	135	▲1	2	1	
技 能 労 務 職 員	医療技術員	0		0	0		0	0	0	0
	運 転 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	調 理 師	0		0	0		0	0	0	0
	営繕技術員	0		0	0		0	0	0	0
	施設管理技師	0		0	0		0	0	0	0
	看護助手	0	55	55	0	57	57	0	▲2	▲2
計	0	55	55	0	57	57	0	▲2	▲2	
合 計	986	274	1,260	969	268	1,237	17	6	23	

注) 令和4年度現員、令和3年度現員とも病院局本局を本務とする職員は含まない。

4 こころの医療センター

(1) 組織

(令和5年3月31日現在)



(2) 職員の配置状況

(令和5年3月31日現在)

(単位：人)

職 種	令和4年度現員			令和3年度現員			増 減			
	正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計	
医 師	病 院 長	1		1	1		1	0	0	0
	副 院 長	1		1	1		1	0	0	0
	医 療 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	医 療 局 次 長	1		1	1		1	0	0	0
	医 療 技 術 部 長	1		1	1		1	0	0	0
	部 長	2		2	4		4	▲ 2	0	▲ 2
	医 長	2		2	3		3	▲ 1	0	▲ 1
	医 員	3		3	1		1	2	0	2
嘱 託 ・ 研 修 医 師	0		0	0		0	0	0	0	
計	12	0	12	13	0	13	▲ 1	0	▲ 1	
看 護 師	看 護 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	看 護 局 次 長	1		1	1		1	0	0	0
	看 護 師 長	7		7	6		6	1	0	1
	副 看 護 師 長	12		12	11		11	1	0	1
	看 護 師	102	12	114	102	13	115	0	▲ 1	▲ 1
	准 看 護 師	0	0	0	0	1	1	0	▲ 1	▲ 1
計	123	12	135	121	14	135	2	▲ 2	0	
医 療 技 術 職 員	薬 剤 師	4		4	4		4	0	0	0
	臨 床 検 査 技 師	1	1	2	1	1	2	0	0	0
	作 業 療 法 士	4	4	8	4	3	7	0	1	1
	管 理 栄 養 士	2		2	2		2	0	0	0
	心 理 判 定 員	2		2	2		2	0	0	0
	臨 床 心 理 士	2	5	7	2	4	6	0	1	1
	病 歴 士 ・ 診 療 情 報 管 理 士	1	2	3	1	2	3	0	0	0
精 神 保 健 福 祉 士	7	4	11	7	4	11	0	0	0	
計	23	16	39	23	14	37	0	2	2	
事 務 職 員	事 務 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	調 整 監	0		0	0		0	0	0	0
	課 長 ・ 企 画 幹	2		2	2		2	0	0	0
	主 幹 ・ 企 画 員 ・ 主 任 ・ 主 任 主 事 ・ 主 事	7	11	18	8	7	15	▲ 1	4	3
計	10	11	21	11	7	18	▲ 1	4	3	
技 能 労 務 職 員	医 療 技 術 員	0		0	0		0	0	0	0
	運 転 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	調 理 師	0		0	0		0	0	0	0
	営 繕 技 術 員	0		0	0		0	0	0	0
	施 設 管 理 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	看 護 助 手	0	11	11	0	11	11	0	0	0
計	0	11	11	0	11	11	0	0	0	
合 計	168	50	218	168	46	214	0	4	4	

注) 令和4年度現員、令和3年度現員とも病院局本局を本務とする職員は含まない。

令和4年度 病院事業会計決算の概要

I 中央病院

1 事業概要

- (1) 県内全域をエリアとした三次医療を担う基幹病院として、高度・特殊・専門医療の提供、政策医療の推進、地域医療への支援や医療従事者の育成などの役割を果たした。
- (2) 主な機能として高度救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、第二種感染症指定医療機関、地域周産期母子医療センターを運用し、また、ドクターヘリの基地病院として救命救急医療に取り組んだ。
- (3) 前年度に引き続き、新型コロナ重症患者等の受入に加え、PCR検査やワクチン接種の受託等、病院全体でコロナ禍の状況に対応した。
- (4) 経営改善実行プランに基づき、収入増・費用削減に取り組み、収支改善を図った。
- (5) 患者数等の状況（対前年度比較）
入院は、患者数は減少したが、診療単価は診療報酬改定の影響や医療の質の向上による診療報酬加算の取得等があり増加した。外来は患者数・診療単価ともに増加した。

区分		令和4年度 A	令和3年度 B	増減 A-B
入院	患者数（人）	165,568	166,960	▲ 1,392
	うち新規入院患者数	12,640	12,891	▲ 251
	診療単価（円）	74,132	70,761	3,371
外来	患者数（人）	228,730	228,662	68
	うち救急患者数	17,709	16,624	1,085
	診療単価（円）	18,548	18,179	369

2 収益的収支

(1) 収 益

- ① 医業収益は、前年度比645百万円の増
 - 1) 入院収益：診療単価の増により460百万円の増
 - 2) 外来収益：診療単価の増により86百万円の増
- ② 医業外収益は、一般会計負担金の減等により前年度比89百万円の減
- ③ 総収益は、前年度比556百万円の増

(2) 費 用

- ① 医業費用は、前年度比494百万円の増
 - 1) 給与費：給与改定による増等により226百万円の増
 - 2) 材料費：薬品費の増等により47百万円の増
 - 3) 経 費：光熱水費の増等により194百万円の増
 - 4) 減価償却費：前年度の工事に伴う建物減価償却費の増等により44百万円の増
- ② 医業外費用は、前年度比9百万円の増
- ③ 総費用は、前年度比488百万円の増

(3) 経常損益は、859百万円の利益計上となり、前年度比54百万円の増益

(4) 純損益は、841百万円の利益計上となり、前年度比68百万円の増益

3 資本的収支

- (1) 収入は、企業債や企業債償還金に充当する一般会計負担金等で2,322百万円
- (2) 支出は、建設改良費と企業債償還金で3,254百万円
- (3) 収支不足額932百万円は、過年度分損益勘定留保資金等により補填

4 単年度資金収支

償却前損益に資本的収支を反映した単年度資金収支は、480百万円で前年度比532百万円の減

5 比較貸借対照表

期末現金預金残高は2,017百万円で、前年度比6百万円の増

【令和4年度中央病院決算状況】

(単位：百万円)

	【収益的収支】	R4年度 A	R3年度 B	比較増減 A-B	備 考 (主なもの)
1	総 収 益	21,106	20,550	556	
2	医業収益	17,699	17,054	645	
3	入院収益	12,274	11,814	460	患者数▲1,392人、単価+3,371円/人
4	外来収益	4,242	4,157	86	患者数+68人、単価+369円/人
5	その他医業収益	1,183	1,083	100	一般会計負担金+101
6	医業外収益	3,406	3,495	▲ 89	医療等物価高騰対策応援金+57 (皆増) 一般会計負担金▲141
7	特別利益	0	1	▲ 1	過年度損益修正益▲1
8	総 費 用	20,265	19,777	488	
9	医業費用	18,888	18,394	494	
10	給与費	9,793	9,567	226	給料+105、手当+93、報酬+19 法定福利費+36、退職給付費▲27
11	うち引当金	975	1,014	▲ 39	
12	材料費	4,291	4,244	47	薬品費+18、診療材料費+10、給食材料費+20
13	経費	3,383	3,189	194	電気代+132、ガス代+62
14	減価償却費	1,317	1,273	44	建物+37、器械備品+7
15	その他医業費用	104	120	▲ 17	
16	医業外費用	1,358	1,349	9	併任医師給与一般会計負担金+21 控除対象外消費税+23 企業債償還利息▲35
17	特別損失	18	34	▲ 15	出産入院時の消費税返金▲27
18	経常損益	859	806	54	(2行目+6行目)-(9行目+16行目)
19	純 損 益	841	773	68	1行目-8行目
20	償却前損益	1,411	1,453	▲ 42	

	【資本的収支】	R4年度 A	R3年度 B	比較増減 A-B	備 考 (主なもの)
21	資本的収入	2,322	3,022	▲ 700	企業債771 (+27) 一般会計負担金1,479 (+12) ころCからの長期借入0 (▲500 : 皆減) 病床機能転換に伴う施設整備補助0 (▲274 : 皆減) 新型コロナウイルス感染症対策整備補助71 (+39)
22	資本的支出	3,254	3,463	▲ 210	建設改良費841 (▲221) [改良269 (▲481)、資産購入572 (+261)] 企業債償還2,413 (+11)
23	資本的収支	▲ 932	▲ 441	▲ 490	21行目-22行目
	【単年度資金収支】	R4年度 A	R3年度 B	比較増減 A-B	備 考 (主なもの)
24	単年度資金収支	480	1,012	▲ 532	20行目+23行目

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

(単位：百万円)

	【比較貸借対照表】	期 末	期 首	比較増減	備 考 (主なもの)
25	固定資産	21,559	22,140	▲ 582	減価償却による減等
26	流動資産	5,265	5,235	30	
27	うち現金預金	2,017	2,011	6	
28	資産合計	26,823	27,375	▲ 552	
29	固定負債	13,097	14,708	▲ 1,612	企業債の減
30	流動負債	4,375	4,799	▲ 424	未払金の減
31	繰延収益	6,092	5,450	642	長期前受金の増
32	負債合計	23,563	24,957	▲ 1,393	
33	資本金	1,761	1,761	0	
34	剰余金	1,499	657	841	当年度純利益の計上による増
35	資本合計	3,260	2,419	841	
36	負債・資本合計	26,823	27,375	▲ 552	

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

中央病院の経営改善の取組

1. 令和元年度以降の取組（令和4年度も継続）

平成25年度以降、単年度資金収支の赤字が続いていたため、平成31年3月に「中央病院経営改善計画」、令和2年度以降毎年度「経営改善実行プラン」を策定し、職員の意識改革や医療の質の向上による各種診療報酬加算の積極的な取得等の収入の増や費用の削減に取り組むなど、収支改善に向けて取組を進めてきた。

今後も毎年度、経営改善実行プランを策定し、実効性を高めながら病院全体で収支改善に取り組んでいく。

○ 入院患者数と入院単価の実績と目標 （単位：人、円）

	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 目標
1日あたり入院患者数	443	457	454	460
1人あたり入院単価	71,338	70,761	74,132	74,000

(1) 増収対策

① 入院患者数の確保

- ・ ベッドコントロールの適正化
- ・ 広報の充実、周辺の開業医や病院との連携による紹介率・逆紹介率の向上
- ・ 地共済等を対象とした人間ドックの開始等、健診の拡大
- ・ 産後訪問などサービスの充実による正常分娩の増加 など

② 診療報酬単価のさらなる向上

- ・ 加算が取れていない項目の拾出し及び要因の検証等による診療報酬加算の取得推進
- ・ ICUやHCU（ハイケアユニット）の稼働率向上、HCUの増床による患者数の確保 など

(2) 費用削減対策

- ・ 事務局・薬剤局が一体となって医薬品のベンチマークに基づく価格交渉を実施
- ・ 委託仕様の見直し（直営化を含む）をさらに推進（検体検査、統合物流業務など）
- ・ RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の活用により定型業務を自動化
- ・ 電気代削減に向けた取組 など

2. 令和5年度の経営状況

(1) 入院・外来患者数（各年度累計比較） （単位：人）

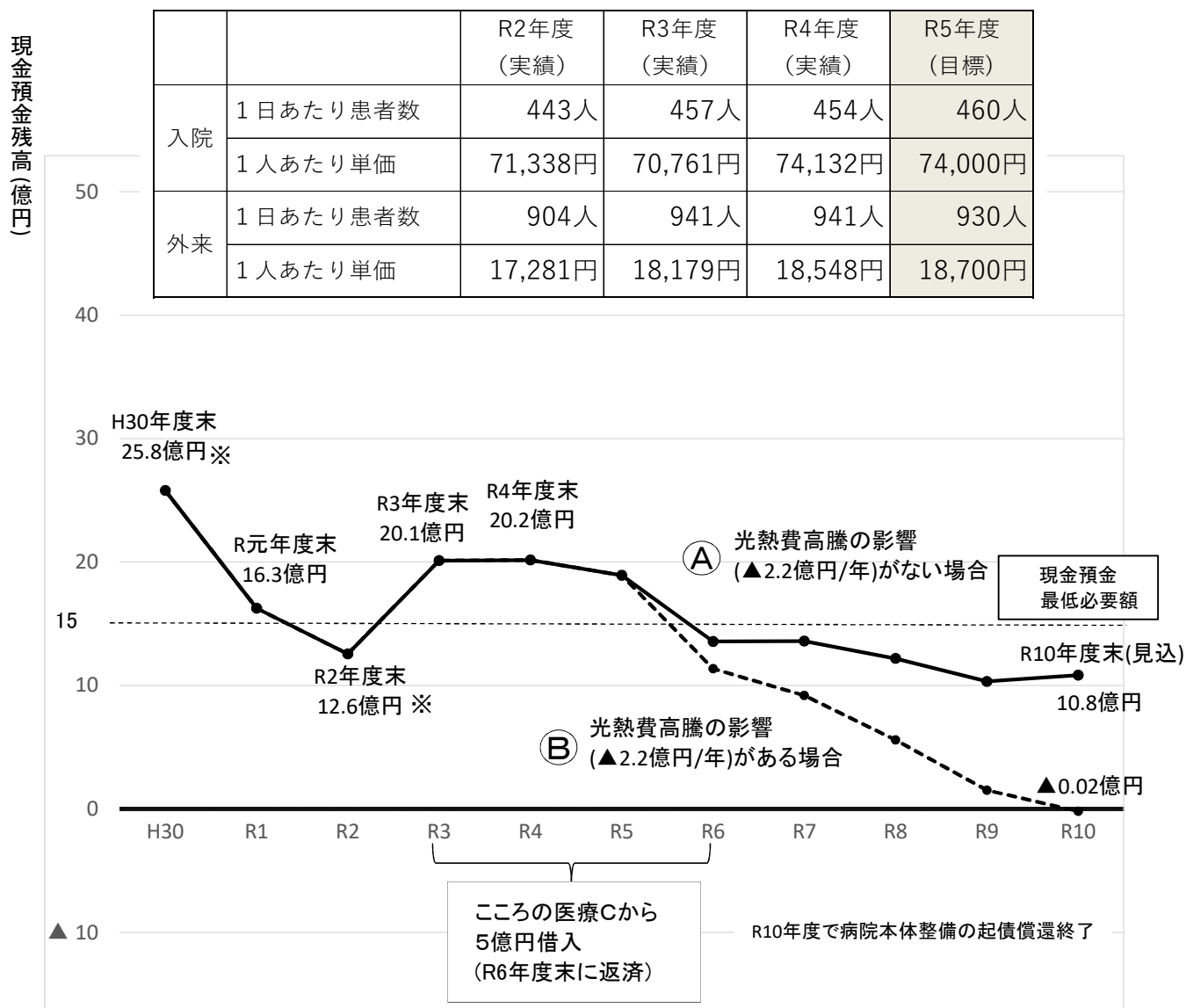
	R3.8月末	R4.8月末 A	R5.8月末 B	増減 B - A	増減率 B / A
入院患者数	70,333	67,843	67,638	▲ 205	100%
外来患者数	95,315	96,292	93,895	▲ 2,397	98%

(2) 入院・外来収益（各年度累計比較） （単位：百万円）

	R3.8月末	R4.8月末 C	R5.8月末 D	増減 D - C	増減率 D / C
入院収益	4,942	4,912	5,187	275	106%
外来収益	1,691	1,779	1,853	74	104%
合計	6,633	6,691	7,040	348	105%

3. 収支見通し

中央病院 現金預金残高の推計



※H30年度末、R2年度末は年度末の未収金・未払金を加味した残高

主な推計条件

(収入)

- 入院収益及び外来収益は、R5年度目標値で推移
- 新型コロナ及び物価高騰関連の補助金は、R5年度下期以降見込んでいない

(支出)

- 人件費は、R4年度決算値にR5年度増員影響を加えた額で推移
- 薬品費及び診療材料費は、入院収益及び外来収益に連動
- その他の経費は、R4年度決算値で推移

II ころの医療センター

1 事業概要

- (1) 県の精神医療の基幹的病院として精神科救急・急性期医療や児童・思春期の精神疾患治療など医療の提供に取り組んだ。
- (2) 平成29年10月から指定を受けている医療観察法指定入院医療機関の運営により司法精神医療の提供に取り組んだ。
- (3) 患者数等の状況（前年度比較）

診療単価の上昇はあったものの、入院患者数・外来患者数はともに減少した。

	令和4年度 A	令和3年度 B	増減 A－B
入院患者数（人）	57,618	58,754	▲ 1,136
上記のうち新規入院患者数	269	299	▲ 30
入院診療単価（円）	21,302	21,118	184
外来患者数（人）	24,688	26,091	▲ 1,403
上記のうち救急患者数	130	170	▲ 40
外来診療単価（円）	7,913	7,855	58

2 収益的収支

(1) 収益

- ① 医業収益は、前年度比34百万円の減
 - 1) 入院収益：診療単価は上昇したが、患者数が減少し13百万円の減
 - 2) 外来収益：診療単価は上昇したが、患者数が減少し10百万円の減
- ② 医業外収益は、退職給付費一般会計負担金の減等により前年度比29百万円の減
- ③ 総収益は、前年度比78百万円の減

(2) 費用

- ① 医業費用は、前年度比96百万円の増
 - 1) 給与費：退職給付費の増等により59百万円の増
 - 2) 経費：光熱水費・燃料費の増等により35百万円の増
 - 3) 減価償却費：建物減価償却費の増等により9百万円の増
 - ② 医業外費用は、退職給付費一般会計負担分の減等により前年度比53百万円の減
 - ③ 総費用は、前年度比44百万円の増
- (3) 経常損益は、158百万円の損失計上となり、前年度比107百万円の減益
 - (4) 純損益は、90百万円の損失計上となり、前年度比122百万円の減益

3 資本的収支

- (1) 収入は、企業債と企業債償還金に充当する一般会計負担金で343百万円
- (2) 支出は、建設改良費と企業債償還金で378百万円
- (3) 収支不足額35百万円は、過年度分損益勘定留保資金等により補填

4 単年度資金収支

償却前損益に資本的収支を反映した単年度資金収支は、▲69百万円で前年度比526百万円の増

5 比較貸借対照表

期末現金預金残高は513百万円で、前年度比181百万円の減

【令和4年度こころの医療センター決算状況】

(単位：百万円)

	【収益的収支】	R 4年度 A	R 3年度 B	比較増減 A-B	備 考 (主なもの)
1	総 収 益	2,609	2,688	▲ 78	
2	医業収益	1,484	1,518	▲ 34	
3	入院収益	1,227	1,241	▲ 13	患者数▲1,136人、単価+184円/人
4	外来収益	195	205	▲ 10	患者数▲1,403人、単価+58円/人
5	その他医業収益	61	73	▲ 11	
6	医業外収益	1,057	1,086	▲ 29	退職給付費一般会計負担金▲27 併任医師給与費一般会計負担金▲16 退職給付費他病院負担金▲10 医療等物価高騰対策応援金+9 (皆増)
7	特別利益	69	83	▲ 15	過年度減価償却のうち一般会計負担金等見合分▲14
8	総 費 用	2,699	2,655	44	
9	医業費用	2,514	2,418	96	
10	給与費	1,645	1,586	59	手当+17、報酬+8、 法定福利費+6、退職給付費+28
11	うち、引当金	222	183	39	
12	材料費	112	119	▲ 7	薬品費▲3、診療材料費▲4
13	経費	490	455	35	光熱水費・燃料費+18、委託料+13
14	減価償却費	260	251	9	
15	その他医業費用	7	6	1	
16	医業外費用	185	237	▲ 53	退職給付費一般会計負担分▲27 併任医師給与費▲16 退職給付費他病院負担分▲10
17	特別損失	0	0	0	
18	経常損益	▲ 158	▲ 51	▲ 107	(2行目+6行目)-(9行目+16行目)
19	純 損 益	▲ 90	33	▲ 122	1行目-8行目
20	償却前損益	▲ 34	▲ 67	32	

	【資本的収支】	R 4年度 A	R 3年度 B	比較増減 A-B	備 考 (主なもの)
21	資本的収入	343	482	▲ 139	企業債50(▲105) 一般会計負担金293 (▲9) 他会計補助金0(▲25)
22	資本的支出	378	1,011	▲ 633	中央病院への長期貸付0(▲500) 建設改良費110(▲149) [改良費31(▲120)、資産購入20(▲10)、 若松分校年賦購入費58(▲19)] 企業債償還268(+16)
23	資本的収支	▲ 35	▲ 529	494	21行目-22行目
	【単年度資金収支】	R 4年度 A	R 3年度 B	比較増減 A-B	備 考 (主なもの)
24	単年度資金収支	▲ 69	▲ 595	526	20行目+23行目

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

(単位：百万円)

	【比較貸借対照表】	期 末	期 首	比較増減	備 考 (主なもの)
25	固定資産	4,247	4,457	▲ 209	減価償却による減等
26	流動資産	791	999	▲ 208	
27	うち現金預金	513	694	▲ 181	
28	資産合計	5,038	5,456	▲ 417	
29	固定負債	4,262	4,401	▲ 139	企業債の減
30	流動負債	542	723	▲ 181	割賦金、未払金の減
31	繰延収益	168	176	▲ 8	
32	負債合計	4,972	5,299	▲ 328	
33	資本金	84	84	0	
34	剰余金	▲ 17	72	▲ 90	
35	資本合計	66	156	▲ 90	
36	負債・資本合計	5,038	5,456	▲ 417	

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

2. 資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第22条第1項に規定する資金不足比率について、病院事業会計では令和4年度決算において資金不足が生じていないため、該当ありません。

(1) 公営企業の資金不足比率の算出方法

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金不足額}}{\text{事業規模}}$$

- ・ 資金不足額 = (流動負債－控除企業債等－PFI建設事業費等) － (流動資産)
- ・ 事業の規模 = 営業収益の額 － 受託工事収益の額

(2) 病院事業会計の資金不足比率の算出

① 資金不足額

(単位：千円)

区分	A=a-b	流動負債	控除企業債等	B=c	流動資産	資金不足額 C = A - B
		a	b		c	
病院事業会計	2,188,596	4,916,441	2,727,845	6,055,572	6,055,572	▲ 3,866,976
中央病院	1,918,111	4,374,553	2,456,442	5,264,621	5,264,621	▲ 3,346,510
こころの医療センター	270,485	541,888	271,403	790,951	790,951	▲ 520,466

- ・ 資金不足額が負の数の場合は、資金剰余額を示す。

② 資金不足比率

(単位：千円)

区分	資金不足額 C	事業の規模 D	資金不足比率 C/D
病院事業会計	▲ 3,866,976	19,100,676	－%
中央病院	▲ 3,346,510	17,640,096	－%
こころの医療センター	▲ 520,466	1,460,580	－%

(3) 参考

資金不足比率が経営健全化基準である20%を超過すると、経営健全化計画の策定が必要となる。